

第6次小国町総合計画

【基本構想（素案）】

計画期間：令和8（2026）～令和17（2035）年度

令和 年 月
山形県小国町

目次

第1章 はじめに ～白い森の未来を見つめて～

1 計画の目的と10年ビジョンの展望	2
2 総合計画の全体像と基本構想の位置づけ	2
3 これまでの歩みと町民の想いをつなぐ	3

第2章 変化の時代に立ち向かう～小国町の現状と課題～

課題1 人口減少と地域の持続可能性	4
課題2 暮らしを支える基盤の揺らぎ	4
課題3 GX・DXによる社会変革への対応	5
課題4 気候変動と自然災害へのレジリエンス	5
課題5 地域経済・産業構造の変化と課題	6

第3章 白い森の未来を描く ～基本理念と10年ビジョン～

1 小国町らしさを未来につなぐ基本理念「白い森まるごとブランド構想」	7
2 新たな時代の白い森を創造するまちづくりの柱と基軸とする視点	8
3 10年後に実現したい未来像	エラー！ブックマークが定義されていません。

第4章 未来への道しるべ

1 白い森の暮らしを守る ～人・環境・暮らしの再構築～	10
2 白い森の未来を拓く ～外とのつながりで町を豊かに～	12
3 社会に即応した効率的な行財政運営	14

第5章 白い森の約束 ～ともに描く未来～

第1章 はじめに ～白い森の未来を見つめて～

1 計画の目的と10年ビジョンの展望

小国町は、雄大な山々に包まれた雪深い自然環境の中で、森とともに生きる独自の生活文化を築いてきました。町民一人ひとりが生活の知恵や季節に対する感受性、自然と一体となる特有の自然観を持ち、地域のつながりを大切にしながら世代を超えて町を支えてきた歴史は、今日の小国町の根幹を成しています。

こうした自然との共生を基盤としながら、地域に根ざした産業の営みもまた小国町の発展を支えてきました。特に製造業は町の雇用を支え、暮らしの安定と誇りを生み出す重要な役割を果たしてきました。小国町のまちづくりは、自然と人、そしてものづくりの力が調和することで成り立ってきたと言えます。

しかし近年、人口減少や少子高齢化、社会構造の変化、気候変動など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。製造業を含む地域産業の担い手不足、生活利便性の低下、災害リスクの増大など多様な課題が顕在化する中で、町の未来をどのように描き、持続可能な形で実現していくかが問われています。

第6次小国町総合計画の基本構想は、こうした課題に向き合いながら町民とともに未来を見つめ、次世代に誇れる小国町を築いていくことを目指すものです。本構想は、これからの10年間ににおける「未来への道しるべ」としての役割を担います。

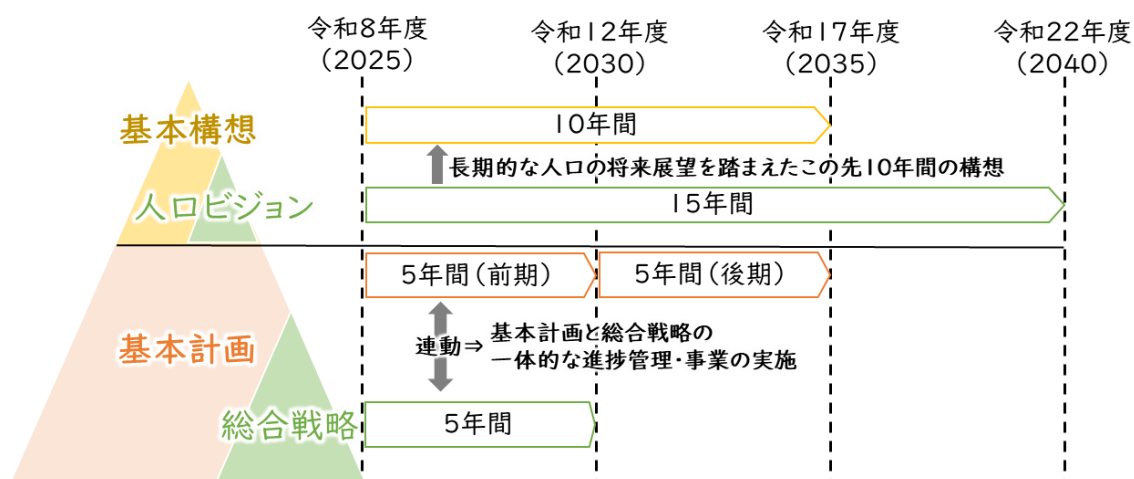
2 総合計画の全体像と基本構想の位置づけ

総合計画は、町政運営の最上位に位置づけられる行政計画であり、町の将来像と政策の方向性を体系的に示すものです。本計画は、以下の二層構造で構成されています。

基本構想： 町の将来像と政策の基本的な考え方を示す長期的な指針（本構想）

基本計画： 分野別の施策体系と中期的な目標を整理し、実現に向けた道筋を示す

計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和17年度（2035年度）までの10年間とし、基本構想ではこの期間における町の長期的な方向性を示すとともに、社会情勢の変化に応じて柔軟に見直しを行うことを前提としています。



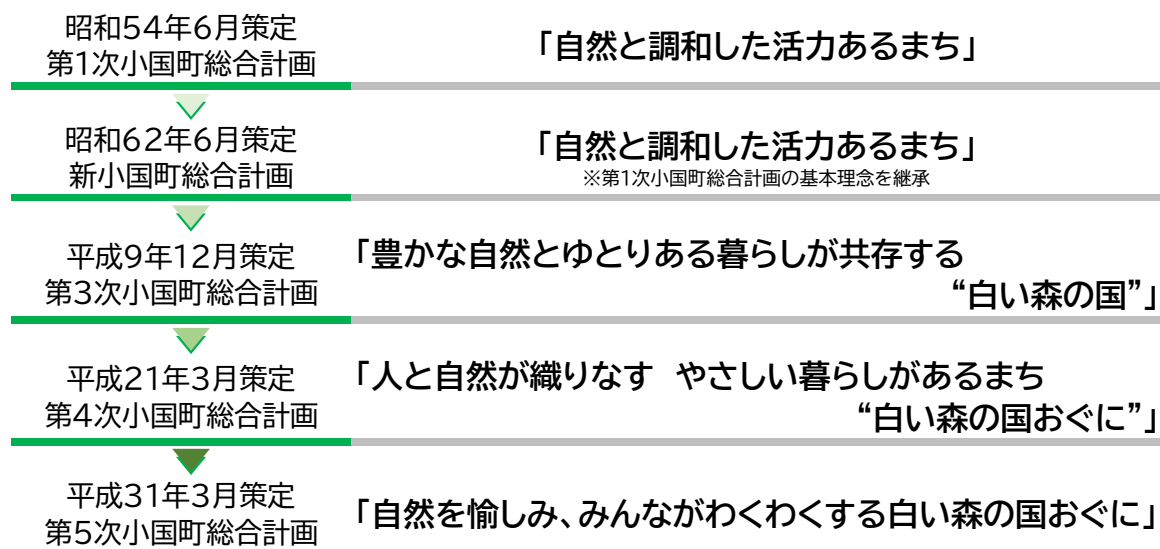
3 これまでの歩みと町民の想いをつなぐ

小国町はこれまで、自然と共生する暮らしを守りながら、地域資源を活かしたまちづくりに取り組んできました。第5次総合計画では、地域コミュニティの再生、子育て支援、観光振興、産業の活性化など多様な分野で施策を展開し、協働人口の創出・拡大を図るとともに、「白い森まるごとブランド構想」に基づく地域づくりを進めてきました。

本計画の策定にあたっては、様々な世代の町民にアンケートやヒアリングを行い、多様な声が寄せられました。中学生のアンケートでは小国町に愛着を持っている割合が約87%と非常に高く、高校生のアンケートでは今後も地域の行事に参加したいという意向が9割を超えました。子育て世代や若手就業者からは、若い世代が町に残れるような施策を望む声が多く寄せられています。

町民一人ひとりの暮らしの中には、小国町への誇りや愛着、そして次世代への思いが息づいています。この基本構想は、そうした町民の思いとこれまでのまちづくりの歩みを未来へとつなぐものです。地域の特性と歴史を踏まえ、町民とともに描く未来像を共有し、持続可能でより幸せを感じられる地域社会の実現を目指します。

●これまでの総合計画における基本理念



第2章 変化の時代に立ち向かう～小国町の現状と課題～

小国町は、豊かな自然環境と地域に根ざした産業、そして人と人との強いつながりによって、独自の暮らしと文化を築いてきました。しかし近年、人口減少や少子高齢化、気候変動、産業構造の変化など、町を取り巻く環境は急速かつ複雑に変化しています。

本章では、これらの現状と課題を整理し、次章以降で示す将来像や施策の方向性の根拠とします。

課題1 人口減少と地域の持続性

日本の人口は2008年をピークに減少傾向にあり、この動きは加速しています。特に生産年齢人口（15～64歳）の減少が著しく、労働力不足による企業の成長力低下や消費の低迷など、経済・社会に大きな影響を及ぼしています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）は、令和2（2020）年の国勢調査の結果等を踏まえて、令和5（2023）年に市町村別の人口推計を公表しています。その人口推計と平成30（2018）年に公表された当時の人口推計を比較すると、全体的にやや上振れしており、平成30（2018）年時点の人口減少の予測よりも抑制が進んでいることを示していることから、これまでの政策による一定の効果がみられるところではあります。

しかしながら、人口減少の抑制が進んでいる状況がある一方、小国町の人口も長期にわたり減少しており、特に若年層の流出と出生数の低下が顕著です。出生数は平成27年に52人だったのに対し、令和7年は見込みで10人となっており、10年で約5分の1に減少すると見られています。一方で高齢化率は令和7年に42.8%に上昇しており、今後もしも高い水準で推移すると考えられます。

この人口構造の変化は地域の活力や自治の基盤に直接影響を及ぼし、地域の担い手不足や住民同士の助け合いが難しくなる場面が増えています。

課題2 暮らしを支える基盤の揺らぎ

町民の暮らしを支える地域交通や商業機能、住宅、医療・福祉サービスなどの生活基盤は、地域の人口減少や需要の変化により維持が困難になっています。令和7年9月に町唯一のスーパーが休業したことで、高齢者、特に一人暮らしの方や車の免許を持たない方の生活利便性が大きく損なわれています。

また、令和4年8月の豪雨災害で不通となっているJR米坂線は、発生から3年が経過した現在も復旧の目途が立っておらず、町外への通学や買い物に大きな支障が出ています。さらに、これまで当然のように維持されてきた道路や上下水道、公営住宅、医療・福祉サービスなどの社会インフラや物流といった民間サービスも、人材不足や近年の人件費高騰により安定して維持することが難しくなっています。

課題3 GX・DXによる社会変革への対応

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、国は「グリーン成長戦略」に基づき、エネルギーの安定供給・経済成長・排出削減の同時実現を目指すGX(グリーン・トランスフォーメーション)を推進しています。また、Society5.0の理念の下、デジタル技術を活用して、仕事や日常生活がより便利で豊かになることを目指すDX(デジタル・トランスフォーメーション)が進められています。

小国町においても、森林資源の循環利用やデジタルインフラ^{*1}の整備は地域の競争力を高める鍵であり、行政運営の効率化や地域産業の高度化、住民サービスの質の向上に直結します。これらを積極的に推進することで、環境負荷を抑えつつ町民の利便性と生産性を高め、持続可能な地域づくりが可能になります。

課題4 気候変動と自然災害へのレジリエンス^{*2}

我が国は、国土の約7割が山林であること、複数のプレートが重なり合う場所に位置すること、そして温暖湿潤な気候であることなどから、地震や台風をはじめとする様々な自然災害が発生しやすく、国は「気候変動適応計画」や「国土強靱化基本計画」に基づき、災害に強い国づくりを進めています。

雪がたくさん降る小国町は、河川沿いに集落が点在しているため、豪雨や豪雪による災害リスクが高い地域です。近年の気候変動により災害は激甚化・頻発化しており、令和4年8月の豪雨・土砂災害や令和7年2月の豪雪災害では大きな被害を受けました。

こうした状況に加え、少子高齢化の進行に伴い、避難時の情報発信や支援体制の整備、防災組織の機能強化、避難所の改善などが必要であり、災害対応力の向上が急務です。適切な森林管理やグリーンインフラ^{*3}の推進などにより、環境保全と防災・減災を両立させる柔軟で強いまちづくりが求められています。

*1 デジタルインフラ…情報通信技術の基盤で、行政や産業を支えるデジタル環境のことです。

*2 レジリエンス…災害や社会変化に直面しても被害を最小限に抑え、柔軟に対応しながら速やかに回復できる力のことを指します。

*3 グリーンインフラ…自然環境や生態系の機能を活かし、防災や治水、景観形成や暮らしの質の向上につなげる社会基盤のことです。

課題5 地域経済・産業構造の変化と課題

我が国の経済状況は、3年におよぶコロナ禍の影響を乗り越え、緩やかな回復が続いています。しかし、世界的な物価高騰や円安の影響を受け、賃金の上昇が物価に追いつかず、個人消費は依然として力強さを欠いています。

小国町の地域経済は長年にわたり製造業を中心とした地場産業によって支えられてきました。地域の自然資源や技術力を活かした産業は雇用の確保と地域経済の安定に大きく寄与しています。しかし近年、国内外の市場環境は急速に変化し、全国的な人材不足は町内の事業所にも及んでおり、先行きの不透明感が増しています。

農林水産業においても担い手の高齢化や後継者不足が深刻化しています。森林資源の活用や農産物のブランド化などの可能性はあるものの、販路の確保や付加価値向上のための加工・流通体制はさらに整備を進める必要があります。

5つの課題を踏まえて

このように、小国町は人口構造、生活基盤、環境変化、産業構造といった多方面で大きな転換点を迎えています。本町が有する課題は多岐に渡りますが、おもに人口減少や人材不足は「人づくり」の課題、社会基盤の維持や災害リスクへの対応は「環境づくり」の課題、産業や医療・福祉の変化は「暮らしづくり」の課題として、「人」「環境」「暮らし」という3つの領域に整理されます。

次章ではこれら3つの領域におけるまちづくりの指針を示し、町民と行政が一体となって、国の地方創生2.0の理念を踏まえた戦略的な取り組みを進めることで、持続可能で魅力ある「白い森の国」の未来を切り拓いていく方向性を表します。

第3章 白い森の未来を描く ～基本理念と10年ビジョン～

基本理念とは、町が将来に向かって大切にすべき価値観であり、すべての施策や取り組みに共通し、今後のまちづくりの根幹を成す指針です。

第6次総合計画では、第5次に引き続き、「白い森まるごとブランド構想」を、まちづくりの基本理念とします。この基本理念に基づく取り組みを町民と行政が一体となって進めることにより、誇りと自信をもって困難に立ち向かう姿勢を明確にしていきます。

1 小国町らしさを未来につなぐ基本理念 「白い森まるごとブランド構想」

今日まで、私たちの先人たちが育み磨き上げてきた、自然を背景とする資源、生活文化や人とのつながりなど、「白い森おくに」のかけがえのない宝を未来に引き継ぎ、心豊かでしなやかなまちづくりを目指します。

そのため、受け継がれてきた生きるための知恵や技、多様な人財*をはじめ、産業や暮らし、教育などあらゆる分野で有する地域資源を価値あるものとして発信し、多方面から選ばれる地域を築き上げる「白い森まるごとブランド構想」を、まちづくりの基本理念とします。この基本理念に基づく取り組みを町民と行政が一体となって進めることにより、誇りと自信をもって困難に立ち向かう姿勢を明確にしていきます。



*人財…「人材を地域の宝として捉える意味を込めて「人財」と表現しています。

2 新たな時代の白い森を創造するまちづくりの指針

基本理念に据えた「白い森まるごとブランド構想」に基づき、次の3つを施策推進の指針とし、戦略的に展開していきます。

指針1 白い森の国を担う『人づくり』の推進

より一層子育てしやすい社会の実現を目指すとともに、まちづくりを担う人財の育成やつながりの充実、多様な人々がまちづくりに関わる取り組みを強化します。

女性や若者が主体的に活躍できる環境整備をはじめ、文化の伝承と発展につながる仕組みの構築や、地域の活力を高めるための新たな協働活動など、複合的な展開による「人づくり」を推進します。

指針2 白い森の魅力を磨く『環境づくり』の推進

社会資本の整備や維持管理など、町民生活の基盤を保全する取り組みや経済を支える産業振興に努めるとともに、防災対策の拡充を通じて危機管理能力を高め、災害に強いまちづくりを実践します。

豊かな自然と共存する生活環境を形成しつつ、新たな技術の活用などにより、町民の安心で快適な暮らしの追求を図ることで、心豊かに日々を過ごせる「環境づくり」につなげます。

指針3 白い森を舞台とした『暮らしづくり』の推進

社会情勢とニーズに対応した医療・福祉施策の充実を図り、町民の命と健康を守る体制を確保します。今後の社会構造の変容を見通した上で、新たな地域社会の方向性を示し、集落機能の保全や地域づくりにかかる多様な手法の創出を図ります。

農林水産業や観光交流の持続的な発展と合わせ、ブランド戦略を多面的に推進し、地域資源の魅力を磨き発信するとともに、地域の稼ぐ力を醸成します。さらに、移住・定住の促進に加えて、協働人口とともにまちづくりを進める仕組みを構築し、ブランド戦略と一体化した地域経済の活性化を通じて、町民の暮らしの質の向上につながる「暮らしづくり」に取り組みます。

3 白い森の未来を描くために基軸とする視点

3つの指針に連なる施策の具現化にあたっては、それらを横断する2つの視点を基軸とし、取り組みの推進を図ることとします。

視点1 白い森の暮らしを守る ー人・暮らし・環境の再構築ー

人口減少・少子高齢化が進行する中、社会経済状況の変化に鋭敏に対応し、新たな地域社会の形成を構想すると同時に、町民サービスの質と持続性を確保して地域の暮らしを守ること

視点2 白い森の未来を拓く ー内外とのつながりで豊かにー

これまでの取組みを踏まえ、町内外とのつながりを強化し、外部への発信力を高めるとともに、異なる分野や領域の要素をかけあわせて地域資源の新たな価値を創造し、成長する社会を目指すこと

4 10年後に実現したい未来像

まちづくりの3つの指針と基軸とする2つの視点に基づき、10年後の目指すべき将来像を次のとおり定めます。

【目指すべき将来像】

検討中

計画全体の体系図

○基本理念

白い森まるごとブランド構想

白い森の国の「人」「環境」「暮らし」が生み出す様々なモノ・コトの魅力を磨き上げ、それらを連関させて発信し評価を獲得することで「誇り」の確立をめざす「白い森まるごとブランド構想」をまちづくりの基本理念に据える。

- ▶ 基本理念に込めた想いを達成するために必要な視点と
まちづくりの目標及び取り組みの方向性

	視点[1] 白い森の暮らしを守る ～人・環境・暮らしの再構築～ (＝地域の暮らしを守る視点)	視点[2] 白い森の未来を拓く～内外とのつながりで町を豊かに～ (＝地域の枠を越えて活力を取り込む視点)
1) 白い森の国を担う 「人づくり」の推進	▶ 目標1 地域を支える人財とつながりの育成 ・方向性① 次代を担う子どもたちの育成支援 ・方向性② 地域の未来を創る人材の育成と世代を超えた学びの場づくり	▶ 目標2 多様な人財と協働人口の創出・拡大 ・方向性① 若者や女性など多様な人財が活躍できる場づくり ・方向性② 伝統文化を継承し地域資源を活用する人財の育成
2) 白い森の魅力を磨く 「環境づくり」の推進	▶ 目標1 自然と共生するウェルビーイングな暮らしの創造 ・方向性① 災害に強い安全安心な生活環境づくり ・方向性② 暮らしを支える社会基盤の保全と産業の振興	▶ 目標2 新技術の活用と生活満足度の向上 ・方向性① 多様な主体と共創するための新たなスキームづくり ・方向性② GX・DXの推進による暮らしの利便性向上
3) 白い森を舞台とした 「暮らしづくり」の推進	▶ 目標1 日常の営みを支える地域デザインの構築 ・方向性① 保健、医療、福祉の充実と包括ケア推進体制の確保 ・方向性② 多様な地域活動を支える仕組みの構築と新たな地域社会のデザイン	▶ 目標2 地域資源の高付加価値化と地域経済の活性化 ・方向性① 白い森のブランディングと新たな価値の創出 ・方向性② 心のふるさととして選ばれるまちづくり



- ▶ 上記の取り組みを支えるための行政運営の視点

視点[1] 健全で計画的な行財政の推進

視点[2] 広域連携による地域経営の効率化と強化

第4章 未来への道しるべ

1 白い森の暮らしを守る ～人・環境・暮らしの再構築～

白い森の国を担う『人づくり』の推進

目標
1

地域を支える人財とつながりの育成

方向性1 次代を担う子どもたちの育成支援

小国町で子どもを産み育てるうえで求められる支援としては、出産支援金の交付や保育料の完全無償化、ファミリーサポートセンター事業など従来の子育て支援策を継続するとともに、新たな子どもの遊び場の確保など、子育て世代が安心して暮らし、楽しく子育てできる環境整備に向けて、より一層多彩で意欲的な取り組みを推進します。

こうした子育て支援の拡充のほか、結婚や出産を含め多面的な施策展開によって少子化対策に取り組めます。

方向性2 地域の未来を創る人財の育成と世代を超えた学びの場づくり

小国町の特徴的な教育政策である保小中高一貫教育や高校魅力化プロジェクトの推進に加え、未来の「白い森の国」をリードするたくましい子どもたちを育むため、地域の特性と力を生かした教育活動を展開し、郷土に愛着を持ち、成長できる環境づくりを進めます。

町民だれもが学び、教え合える場と機会を提供し、多世代が相互に関わる取り組みや現代社会に共通する課題や認識に関する学びを通じて、世代間のつながりを強化していきます。

白い森の魅力を磨く『環境づくり』の推進

目標
1

自然と共生するウェルビーイング*な暮らしの創造

方向性1 災害に強い安全安心な生活環境づくり

自然と向き合い、その営みに常に意識を向ける体制を整えることで、災害に対する危機管理能力の向上を図るとともに、多様な情報発信手法の活用に努めます。さらに、災害時の避難所機能の確保・改善や自助・共助の仕組みの拡充など、防災対策の充実に取り組む一方、都市機能の適正な配置を図り、町民の安全・安心な暮らしの持続と心豊かに過ごせる生活環境づくりを進めます。

*ウェルビーイング

…心身の健康に加え、社会的にも充実し、生きがいや幸福感を持って暮らせる状態のこと。

方向性2 暮らしを支える社会基盤の保全と産業の振興

安定した町民生活に不可欠な道路、上下水道、除雪などの社会基盤については、必要な整備・運用・維持保全に継続して取り組むとともに、買い物環境の確保や JR 米坂線などの地域交通の再編・最適化、生活しやすさを追求した住環境の整備を進めます。

労働力不足への対応や雇用情勢に応じた対策を講じるとともに、町内経済をけん引する中核企業等の発展支援をはじめとした取り組みにより、産業全体の永続的な振興を目指します。

白い森を舞台とした『暮らしづくり』の推進

目標
1

日常の営みを支える地域デザインの構築

方向性1 保健、医療、福祉の充実と包括ケア推進体制の確保

高齢者等が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、保健・医療・介護・福祉サービスを一体的に提供し、支援体制を確保するとともに、町民一人ひとりが安らぎのある生活を送れるよう、多様な課題に対応し、お互いに支え合い、ともに生きていく地域共生社会の実現を目指します。

また、健康的な生活習慣の推進など、町民の心と身体健康づくりに向けた取り組みを充実させ、健康寿命の延伸を図ります。

方向性2 多様な地域活動を支える仕組みの構築と 新たな地域社会のデザイン

町民と行政の協働による地域活動の手法を進化させ、協働人口を含む多様な主体が重層的に関わることで集落機能の維持・保全を図り、地域を次の世代につなぐ真に豊かな暮らしを創造します。

一方、地域を取り巻く社会経済環境が急激に変化するなかで柔軟に対応するためには、新たな地域のあり方を研究・議論していくことが重要です。これまで培ってきた地域力を基盤に、将来の地域社会を展望・構想するための諸課題を整理し、具体的な方向の明確化と共有化を図ります。

2 白い森の未来を拓く ～外とのつながりで町を豊かに～

白い森の国を担う『人づくり』の推進

目標
2

多様な人財と協働人口の創出・拡大

方向性1 若者や女性など多様な人財が活躍できる場づくり

アンコンシャス・バイアス（固定的な性別観に関わる無意識の思い込み）に向き合い、その解消に向けた取り組みを強化するなどして、性別や年齢、背景に関わらず多様な人財が能力を発揮できる環境を整えます。

起業支援や副業・兼業・マルチワークの推進、テレワーク環境の整備など、多様な働き方を可能にする体制を整え、ワークライフバランスの実現を目指すとともに、女性や若者をはじめ地域内外の人財がさまざまな取り組みに挑戦しやすい仕組みづくりを進め、協働人口の創出・拡大を図ります。

方向性2 伝統文化を継承し地域資源を活用する人財の育成

自然や森との関わりから育まれたぶな文化やマタギ文化など、小国町ならではの生活文化や生活技術を継承し、それらを活かして新たな産業や交流を創出できる人財を育てるため、多面的な学びの場を設定するとともに、新たな手法の整理と確立を目指します。

また、白い森の豊かな自然や暮らし、文化などの情報発信を一層推進するとともに、地域内外の人々が小国の生活文化に関わる機会を広げ、次世代への継承を確かなものにします。

白い森の魅力を磨く『環境づくり』の推進

目標
2

新技術の活用と生活満足度の向上

方向性1 多様な主体と共創するための新たなスキーム*づくり

町民、行政、企業、関係団体に加え、町外の企業や団体が協働できる仕組みを構築し、地域課題の解決や新たな産業の創出に向けた共創の場を整備します。

さらに、官民連携（PPP）や地域の枠を超えた広域的な連携を積極的に推進し、外とのつながりを活かして新たな結びつきや価値を生み出すことで、地域の豊かさを高めます。

*スキーム

…計画や仕組み、制度の枠組みを表す言葉で、政策や事業の進め方の全体像を示すものです。

方向性2 GX*¹・DX*²の推進による暮らしの利便性向上

AIやデジタル技術を活用し、行政サービスや生活インフラの機能と効率を高め、町民生活の利便性向上に努めます。

町内にある自然資源を活用した再生可能エネルギーの導入や省エネの促進を通じて、環境負荷の低減と快適な暮らしの実現を図ります。次世代に向けた持続可能な環境づくりにつなげることで、女性や若者をはじめ多くの世代にとって魅力的で幸福度の高い地域社会の形成を目指します。

白い森を舞台とした「暮らしづくり」の推進

目標
2

地域資源の高付加価値化と地域経済の活性化

方向性1 白い森のブランディングと新たな価値の創出

地域に根ざした農林水産業の振興や、地域資源の活用による観光交流の推進に努めるとともに、「白い森まるごとブランド構想」に基づき、「白い森」の魅力を継続的に発信して、小国町＝白い森のイメージのさらなる定着と認知度向上を図り、白い森ブランドの確立を志向します。

こうした取り組みを、多様な主体の連携・協働によって展開することとあわせ、豊かな自然が育む農林水産物や観光資源など多彩な地域資源を組み合わせ、高付加価値のある産品・サービスを創出し、地域経済の活性化につなげます。

方向性2 心のふるさととして選ばれるまちづくり

デジタルファンコミュニティ*³やふるさと住民登録制度を活用し、いつでもどこでも小国町の情報に触れ、町民の取り組みを応援できる体制と、協働人口がまちづくりや地域づくりに関わるための仕組みを構築します。

移住定住・二地域居住・長期滞在・ファミリーワーケーションなど、多様な関わり方を受け入れる環境を整備し、訪れた人が「また来たい」「何度も訪れたい」と思えるまち、そして町を離れた人が「いつでも帰ってこられる」「いつでも温かく迎えられる」と感じられるまちを目指します。

*1 GX

…「グリーントランスフォーメーション」の略称で、温室効果ガス削減や再生可能エネルギー導入を進め、脱炭素社会への転換を図る取り組みです。

*2 DX

…「デジタルトランスフォーメーション」の略称で、デジタル技術を活用して産業や行政サービス、住民の生活を抜本的に変革することを指します。

*3 デジタルファンコミュニティ

…SNSやオンライン上で地域やイベントを応援する人々が集まり、情報発信や交流を通じて地域活性化に寄与する仕組みです。

3 社会に即応した効率的な行財政運営

1) 健全で計画的な行財政の推進

少子高齢化や住民ニーズの多様化を背景に、行政サービスは拡大・複雑化しています。今後も質の高いサービスを提供するため、公共施設の統廃合・解体、事業評価による費用対効果の最大化、事業の選択と集中、DXによる行政コストの削減などにより、財政の健全化を図ります。

また、国や県の交付金を活用するとともに、ふるさと納税および企業版ふるさと納税の強化、民間企業やNPO等と協働した公共サービスの提供、施設の建設・運営、公共施設の売却などを通じて新たな収入源を確保し、計画的かつ安定的な行財政運営を進めます。

2) 広域連携による地域経営の効率化と強化

広域連携は、地域経営の効率化と持続可能性を高める有力な手段であり、積極的に活用すべき取り組みです。引き続き近隣自治体と連携しながら広域行政を推進し、置賜定住自立圏形成協定に基づく共通の行政課題に柔軟かつ効率的に対応していきます。

特に、DXやAIなどの専門性が高い分野や、本町の地理的条件を踏まえた広域的な施設整備・運営、公共交通分野での連携を強化するとともに、新たな課題に対する施策の調整を図ります。

第5章 白い森の約束 ～ともに描く未来～

【白い森の特性に基づく新たな住民幸福度の提案と多彩な共創によるまちづくり】

地域社会をめぐる環境は変化が激しく、それに伴い厳しい現状にありますが、小国町には受け継がれてきた優れた特性が残っており、先人たちが育んできた思いも現代に息づいています。

私たちはその思いに想像力を働かせ心にとどめながら、白い森の特性や地域資源を従来とは異なる発想で組み合わせ、町民と協働人口が一体となって、白い森の国おぐにの新しい価値の創造を目指します。

この新しい価値を根幹に据え、地域全体のつながりを強化し活力を高めるとともに、小国町で生まれ育ち、暮らしていくことに町民が誇りを持ち続けられるよう、白い森の風土に根ざした住民幸福度の考え方を創出し、広く提示していきます。